

## 基本のチェックポイント13

障がいのある児童生徒等の「分かる」「できる」を支える、基本の13のポイントをチェックしましょう。  
※児童生徒等の実態に応じて、配慮の有無や程度は変わります。

		チェックポイント
接し方	<input type="checkbox"/>	<b>児童生徒等のよいところや強みをたくさん見つけましょう。</b> 児童生徒等のやる気、指導・支援のヒントにつながります。
	<input type="checkbox"/>	<b>担任が、一番身近なモデルになりましょう。</b> 児童生徒等は担任の話す言葉やふるまいを真似ることが大好きです。
	<input type="checkbox"/>	<b>「なぜ」の視点で、児童生徒等の言動の背景を探りましょう。</b> 言動のみを評価せず、その背景(障がいの状態や発達段階、前後の事象等)に目を向けます。
指導・支援	<input type="checkbox"/>	<b>具体的な言葉で、一つずつ指示を伝えましょう。</b> 「筆箱をもって、並んで図書室に行きましょう」 →「今から図書室に行きます」「筆箱を持ちましょう」「廊下に出席順に並びましょう」等。
	<input type="checkbox"/>	<b>具体物、写真、文字等で補い、分かりやすく情報を伝えましょう。</b> 例) 校外学習の行先の写真を提示する。口頭指示を板書する。
	<input type="checkbox"/>	<b>1時間の授業のめあてと流れを明示しましょう。</b> 児童生徒等に分かる言葉で、簡潔に示す配慮が必要です。
	<input type="checkbox"/>	<b>活動の終わりはどこかを具体的に伝え、見通しをもたせましょう。</b> 例) 「〇時〇分にはこの作業を終わります」「5枚封筒を作ったら終わりです」等。
	<input type="checkbox"/>	<b>予定を提示するなど見通しをもたせ、自主性を高めましょう。</b> 例) 月・週・1日の予定を示す。変更は口頭ではなく、板書して伝える。
	<input type="checkbox"/>	<b>スモールステップの課題を準備し、成功体験を積みませましょう。</b> 「分かった」「できた」を実感させ、学びの確実な定着と意欲の向上を図ります。
教室環境	<input type="checkbox"/>	<b>片付けの場所や道具の置き場所を分かりやすく示しましょう。</b> 例)ロッカーに道具の名前やイラストを貼る。
	<input type="checkbox"/>	<b>場の構造化を図り、活動を分かりやすくする工夫をしましょう。</b> 例) 教室をいくつかのエリアに分け、学習スペース、作業スペース、休憩スペース等を設ける。
	<input type="checkbox"/>	<b>視覚的な刺激を整理し、集中しやすい環境を整えましょう。</b> 例) 教室前面の掲示物を整理する。不要なものをカーテンで覆う。
	<input type="checkbox"/>	<b>教室内外の音が集中の妨げとならないよう配慮しましょう。</b> 例) 複数学年で同時に学習する際の他学年への指導の声、隣の教室の音等に配慮する。

◇障がい特性に応じて、それぞれ配慮が必要です。

⇒「西部地区特別支援学級 指導のチェックポイント 西部教育局 令和3年3月」参照

◇上記のチェックポイントを意識しながら、各教科等の指導や日頃の関わりに留意しましょう。

◇児童生徒等によっては複数の障がいを併せ有している場合もあるため、主たる障がいだけでなく、併せ有する障がいへの配慮にも心がけましょう。

「特別支援教育の手引 令和2年3月 鳥取県教育委員会」より(一部加工)